

自らの疑問を基に探究課題を設定することができる生徒の育成 —プチ課題設定シートの活用と友達と交流し合う活動を通して—

特別研修員 社会 吉田吟 (中学校教諭)

目指す生徒像



自らの疑問を基に探究課題を設定することができる生徒

◇実践例：単元名「これからの人権保障」（通常時、3時間構成の単元）

複数の通常単元に**本実践**の1時間を加えることで、探究心upを目指す😊

手立て②



探究課題 (Before) を基に友達と交流し合い、探究課題 (After) を再考する場の設定。

第4時-3 アドバイスを基に再考し、探究課題 (After) を設定する過程

友達から入力してもらったアドバイスを基に再考し、探究課題 (After) を設定する。

紛争が起きている国の生活状況と日本の違いとは？

生徒Aの探究課題 (Before)

➔

自分なりの解決方法なども考えるといいかも！

今後どうしていきべきかっていう話も聞きたいです！

結構難しそうだけど紛争を防ぐ方法も考えてほしいかな！

友達3人から入力してもらったアドバイス

➔

紛争が起きている国の生活と日本の生活の違い～**どうすれば紛争を解決できる？**～

生徒Aの探究課題 (After)

第4時-2 友達と交流する過程

- I. ペアになり互いの探究課題の設定理由を伝え合う。
- II. **交流用の表計算ソフト**へ、互いの探究課題がよくなるためのアドバイスを入力し合う。

上記IとIIの学習活動を、相手を変えながら3セット実施。

こういう視点も取り入れたらもっと解決的な探究課題になると思う！



手立て①



学習の振り返りと疑問を蓄積したプチ課題設定シートの使用。

第4時-1 探究課題 (Before) を設定する過程

「プチ課題設定シート」を参考にしながら、探究課題 (Before) を設定し **アンケート作成ソフト** で送信する。全員が送信できたことを確認後、教師が **交流用の表計算ソフト** へコピー&ペーストし、互いの探究課題 (Before) を共有できるようにする。

名前	探究課題 Before
生徒A	紛争が起きている国の生活状況と日本との違い
生徒B	国境なき医師団は、具体的にどこでどのような活動をしているのか
生徒C	児童労働の原因は何か？また、その解決策はあるのか
生徒D	肺器移植のメリット・デメリット

第1～3時 プチ課題設定シートへの学習の振り返りと疑問の蓄積

第1～3時における各授業の終末に「学習の振り返り」と「疑問」を **アンケート作成ソフト** で送信する。送信された内容については、教師が **表計算ソフト** にコピー&ペーストし一覧で見られるようにする。

「プチ課題設定シート」完成

	1時間目の振り返り	2時間目の振り返り	3時間目の振り返り
本時のめあて	産業や科学技術の発展に伴って、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	情報化の進展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取り組みがなされてきたか考えよう。
生徒A	クローンの賛成、反対で賛成側は科学などの産業の発展をメインに考えているが、それではいま生きている人の心を傷つける可能性がある。また、今外国人の雇用人数が増え日本人が就職難になるかも知れない今、能力を上げられるクローンが誕生するとそれこそ日本人の就職率が減少してしまうと思う。	防犯カメラが町にいくつあっても犯罪解決に貢献するため、メリットのほうが多いと思う。防犯カメラは誰でも見られるわけではなく、何もなければ別に注目されるされるわけではないから安全重視でこれからも活動していくのが良いと思う。	自分は戦争がない平和な生活を送っているため、戦後のある生活を送ってみたいなあと思いついた。戦争が毎日起きている国の子供達は毎日の危機にさらされて、生きていることで精一杯な生活を送っている。戦争がない国とある国では生きている状況に差があるから、その差をなくし、みんなが自分の夢を持ち生きている世の中にならなうと思った。世界人権宣言が宣言されたから、日本では何となくと上座の課題が解
	時代が進むにつれて、科学や産業も進んでいって、時代に	プライバシーの権利についてですが、最近インターネットを使うと	

生徒の実態



疑問をもって主体的に学ぶことが得意ではない生徒もいる

教師の願い



社会の中でささいな疑問をもち、課題を見付けようとする資質を身に付けてほしい

成果○と課題●

○【プチ課題設定シートによる学習の振り返りと疑問の蓄積 → 探究課題 (Before) 設定・共有 → 友達と交流 → 再考 → 探究課題 (After) 設定】のサイクルを複数の単元で取り入れたことで、生徒も自らの疑問を基に探究課題を設定することに慣れてきた様子が見られた。

●教師は単なる進行役ではなく、生徒の学びを保障しながらも学習活動の質を高められるファシリテーターとしての役割を果たすための工夫を考える必要がある。